好奇心漫遊記：世の中面白い事だらけ

数学編-６：人生とお金の関係

矢澤　洋爾

私は思いました。「もし今 10 億円のお金があったら、それでも今の仕事を続けるのだろうか？」と。答えは明らかに「No！」。もし 10 億円のお金があったら、きっと会社を辞めて、自分の好きなことをするのだろうと思います。好きなことって何か？多分、本を読んだり、映画を見たり、旅行をしたり、友達と飲んだりおしゃべりしたりテニスをしたり・・・・・。以前私が「幸福な一日・一週間・一ヶ月のイメージ」として書いたような生活をするのだろうと思います。しかし現実には私には 10 億円のお金がないから会社勤めを続けています。

では 10 億円でなくて 5 億円ならどうか？多分 5 億円でも会社を辞めるに違いない。3 億円ならどうか？3 億円でも辞めるでしょう。1 億円ならどうか？う～ん。やっぱ辞めるかな。5 千万円ならどうか？ちょっと自信ないなあ。

と言うわけで、人生とお金の関係について少し考えてみようと思ったわけです。

「幸福な一日・一週間・一ヶ月のイメージ」に現在の会社勤めの日々がピッタリ嵌っている人、会社生活が楽しいという人は以下を読んでも面白くないかも分りません。会社勤めは糧を得るための手段でしかない、できればもっと違うことに自分の時間を使いたい、という人は以下の考察を参考にして下さい。

（仮に 10 億円のお金があったとしても今の仕事を続けたい、と思っている方がいるとしたら、その人こそ天職を得た人と言うべきでしょう。多分ジョン・レノンはそうだったでしょうし、ピカソもそうだったでしょうし、ビル・ゲイツもそうであるに違い有りません。）

私はお金そのものが欲しいわけではありません。お金は必要最小限あればいい。飢え死にしないため、凍えないため、他人に迷惑を掛けないため、たまにささやかな贅沢をするため、そのための必要最小限のお金があればいい、と思ってます。現在 55 歳の私にとって、10 億円は間違いなく必要最小限以上のお金です。では一体 55 歳の人間にとって必要最小限のお金とはいくらなのか？もしそのお金を既に持っているとしたら、早く会社を辞めて、自分の思うがままの時間を使うべきではないか。自分の思うがままの時間を使うことをスタートするのが１日遅れるとすれば、それは言いかえれば自分の死ぬのが 1 日早まるのと同じことではないか。どちらも自分の時間を失うと言う意味では同じなのだから。

そういうことを考えるとｎ歳時点での必要最低限のお金を正確に把握することは、自分の人生を送るために非常に大切なことではないか、と思えるのです。若い頃は先行きの不確定要素が多すぎて必要最低限のお金の把握は大変難しか

ろうと思います。だが、そろそろ還暦かという頃になるとある程度先行きも見えてきて、かなりの精度で予測が可能である様に思えます。

以下夫婦二人で生活することを前提に試算を進めます。子供の教育費等が残っている場合は別途それを上乗せして下さい。また、配偶者に死に別れて余計に費用がかかるということも想定していません。食事を全て外食に頼る事になって余計な出費が発生するなんてことのないよう、私は料理の腕を磨いています。

必要最低限のお金の試算を行う上で一番基本となるのは、「あと何年生きるのか」ということだろうと思います。もし明日死ぬ、ということになればもうお金なんか要らない。お金の価値が殆ど０になって時間の価値が無限大になります。嫌々ながら会社勤めを続けているのはお金の価値が時間の価値を上回っているからでしょう。いずれにしろ「あと何年生きるのか」が分らなければ必要最低限のお金の試算なんか出来るわけがありません。

厚生省大臣官房統計情報部が発表している平均余命のデータはそれについての適切な情報を提供してくれます。

http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life04/1.html

	平均余命		想定死亡年齢	
	男	女	男	女
55歳	25.04	30.82	80	86
60歳	20.91	26.29	81	86
65歳	17.02	21.89	82	87
70歳	13.48	17.67	84	88
75歳	10.28	13.71	85	89
80歳	7.53	10.18	88	90
85歳	5.36	7.26	90	92
90歳	3.76	5.05	94	95
95歳	2.64	3.57	98	99

それは左の表の通りです。55 歳ではあと 25 年、60 歳ではあと 21 年程度生きるだろう、というわけですね。まあこれは平均ですから、これに 5 年くらいの余裕を見ておけばまあ安心でしょう。ですから 55 歳では 85 歳まで生きるとして必要なお金を試算する、という方針で大丈夫だろうと思います。

55 歳の人なら、30 年間飢えない、30 年間凍えない、30 年間人並みの交際が出来る、お金がいくらなのか、を計算してみようというわけです。

次ぎの問題は、年間どれくらいのお金があれば「飢えない、凍えない、人並みの交際ができる」かです。

家計支出に関するデータも統計資料がありますが

（http://www.stat.go.jp/data/kakei/family/4-4.htm#3。等）

ただ、これに関しては世間の平均よりも自分の生活実態に合わせる方がよいようです。

これを実感するため実は去年の 10 月からある実験をしています。会社の給与振込口座とは別に 300 万円を入れた銀行口座を作って、全ての生活費を公共料金の引き落としも含めてその口座から引き出し、会社の給料には手をつけないという実験です。年間 300 万円で生活できるかどうかの実験と言っていいと思います。

半年が過ぎた今の実感では、「300 万円ではちょっと辛い」というものです。10 月には紅葉を見に夫婦で香嵐渓へ、2 月には札幌の雪祭りへ、3 月には孫の誕生祝いの催しをやったり、と当初の定常支出の中で想定していなかった事があっ

た事もありますが、しかしこれらを我慢するのは本来の主旨に反するので、こうした支出も当然として、ここでは 450 万円ということにします。多分これで、年間 3 回くらいは夫婦二人でパック旅行くらいできるでしょう。

ただ、歳を重ねるに従って、旅行も出来ないし、家でおとなしくしている時間が長くなるでしょうから必要なお金も少なくなるに違いない。これから先は想像でしかありませんが、65 歳までは年間 450 万円、75 歳までは年間 400 万円、80 歳までは 350 万円、85 歳以降は年間 300 万円で必要最低限の生活は出来るものと考えました。歳を取れば医療費が嵩むからもっとお金が必要だ、という声もありましょうが、福祉制度もあるし、病体になればいずれにしろ活発な活動は出来なくなるわけでお金も要らなくなるはずです。まあ上記の金額の想定はリーズナブルなものだと思います。

上記の生活費は全て自分で用意する必要はありません。年金制度が崩壊しないものとしてそれを組み込みましょう。60 歳から比例報酬部分が支給されます。それを月間 12 万円と仮定します。65 歳からは全額支給されそれを月間 24 万円と仮定します。すると 55 歳以降の生活のための必要資金が試算されます。表では葬儀費用他特別な出費のため 500 万円を加算しました。

年齢	55～60	60～65	65～70	70～75	75～80	80～85	85～90	90～95	95～100	合計	予備資金	必要資金
生活費用	450	450	400	400	350	300	300	300	300		(葬式他)	
年金収入		144	288	288	288	250	250	250	250			
必要資金	450	306	112	112	62	50	50	50	50			
55歳	2,250	1,530	560	560	310	250				5,460	500	5,960
60歳		1,530	560	560	310	250				3,210	500	3,710
65歳			560	560	310	250	250			1,930	500	2,430
70歳				560	310	250	250	250		1,620	500	2,120
75歳					310	250	250	250		1,060	500	1,560
80歳						250	250	250		750	500	1,250
85歳							250	250		500	500	1,000
90歳								250	250	500	500	1,000
95歳								250	250	500	500	1,000

55 歳の人は平均余命が 25 年だから余裕を見て 85 歳まで生きる生活費があればいい。それは予備費 500 万円を含めて約 6000 万円が必要最低限と言えそう。

いや、もっと長生きする可能性もあり、それも考えておこう。こんな考え方はどうか。75 歳の時点で 1500 万円位の貯金があればまあ後の人生どうなろうと、たとえ 95 歳まで長生きしたとしても、大丈夫と言えそうだ。55 歳から 75 歳までの必要資金は 4900 万円。それに 1500 万円を足して 6400 万円あればもうお金のために働くのはやめて、自分の人生を豊にするために時間を使った方が良いのではないか！

6400 万円が必要最低限のお金、ではそれから退職金を引いて、貯蓄が・・・・・

なんて事ばかり考えている今日この頃なのです。

上記を基本としてリスクファクターを考えてみましょう。

１）万が一、年金制度が崩壊した場合を考えてみます。

	55～60	60～65	65～70	70～75	75～80	80～85	85～90	90～95	95～100	合計
必要資金	450	450	400	400	350	300	300	300	300	
55歳	2,250	2,250	2,000	2,000	1,750	1,500				11,750
60歳		2,250	2,000	2,000	1,750	1,500				9,500
65歳			2,000	2,000	1,750	1,500	1,500			8,750
70歳				2,000	1,750	1,500	1,500	1,500		8,250
75歳					1,750	1,500	1,500	1,500		6,250
80歳						1,500	1,500	1,500		4,500
85歳							1,500	1,500		3,000
90歳								1,500	1,500	3,000
95歳									1,500	1,500

同じ考え方をすると 55 歳時点で 1 億 4750 万円也。

(75 歳で 6250 万円必要、75 歳までに 8500 万円必要）

こりゃあ年金制度は崩壊してもらっては困る！！

２）先ほどちょっと触れましたが、病気等で加齢に従い必要経費が増加する場合を考えてみます。65 歳を過ぎて 10 年毎に 1 割づつ経費が増えると考えます。

年齢	55～60	60～65	65～70	70～75	75～80	80～85	85～90	90～95	95～100	合計	予備資金	必要資金
生活費用	320	320	352	352	384	384	416	416	448		(葬式他)	
年金収入		144	288	288	288	250	250	250	250			
必要資金	320	176	64	64	96	134	166	166	198			
55歳	1,600	880	320	320	480	670				4,270	500	4,770
60歳		880	320	320	480	670				2,670	500	3,170
65歳			320	320	480	670	830			2,620	500	3,120
70歳				320	480	670	830	830		3,130	500	3,630
75歳					480	670	830	830		2,810	500	3,310
80歳						670	830	830		2,330	500	2,830
85歳							830	830		1,660	500	2,160
90歳								830	990	1,820	500	2,320
95歳								830	990	1820	500	2,320

その場合は 55 歳の生活レベルを年間 320 万円で暮す程度に抑えれば 6400 万円の手持ち資金で大丈夫ということになりそうです。

（75 歳時点で 3310 万円必要 55 歳から 75 歳まで 3120 万円必要）

誰だったか「年収 300 万円で生きる」というような本を書いている人もいました。頑張ればなんとかできそうな気もします。

３）リスクだけではなく、有利な事も考慮します。手持ち資産を運用する事です。仮に 55 歳時点で 6000 万円の手持ち資金があって、これを毎年 3%で運用したとします。すると最初のモデルと全く同じ支出構造の生活をしたとして、90 歳時点で手持ちのお金が 4250 万円残っていることになります。現在の低金利時代で 3%の運用は無理だとしてでは 1%で運用しましょう。それでも 95 歳時点で約 850 万円の資金が残ります。

55 歳で退職金含めて 6000 万円あれば幸福が買えそうです。

あとは本当に幸福な時間をどう設計するか、に掛かっているような、そんな着がします。

４）折角ここまで検討してきたので、手持ち資金と運用手腕とから退職後の生活レベルを考えてみます。

例えば手持ち資金が 5000 万円あって年利 2%で運用できる手腕があれば年間どれくらいお金を使っても 95 歳まで金欠にならずに済むか、という試算です。但しこの時も年金の収入はあるものとします。その結果は以下の表のようになりました。（表の各セルの値は毎年その金額を使った場合 95 歳でお金が 0 になる、という金額です。ただし最初の仮定と同じ加齢低減あり。）

手持ち資金･金利	0%	0.50%	1%	2%	3%
2,000					
2,180					300
2,290				300	310
2,420			300	310	320
2,500		300	305	320	330
2,600	300	305	315	325	335
3,000	330	335	340	350	360
4,000	370	375	380	390	405
5,000	395	405	415	430	450
6,000	425	435	450	470	500
7,000	455	470	480	510	545
8,000	485	500	515	550	590
9,000	510	530	550	590	640
10,000	540	560	585	630	685

年間 300 万円は最低限必要だと思うのでそれ以下の生活レベルは検討していません。金利 0.5%でしか運用できなければ 2500 万円の手持ち資金がないと 95 歳までの資金が保証されません。金利 3%で運用する腕があれば、手持ち資金 6000 万円を元手に年間 500 万円の生活を送っても 95 歳まではお金がなくなる心配はない、という事です。

５）最後にもう一つ、年間 450 万円の生活レベルを維持するとした場合、手持ち資金と運用手腕を前提に、何歳までお金が持つか、も計算してみました。（表の各セルの値は何歳でお金がなくなるかを示します。この場合も加齢低減ありで試算してます）

手持ち資金･金利	0%	0.50%	1%	2%	3%
2,000	59	59	59	59	59
3,000	62	62	62	63	63
4,000	66	67	68	70	73
5,000	75	77	80	85	＞95
6,000	86	90	＞95	＞95	
7,000	＞95	＞95			
8,000					
9,000					

3000 万円の手持ち資金しかない場合、金利 1%で運用しても 62 歳でお金が底をつきます。7000 万円あれば、仮に金利 0 であっても 95 歳まで年間 450 万円の生活レベルが維持できる。

■結論：退職金含めて 6000 万円～7000 万円を何とか作る。その時が本当の人生の始まりだ！！

(2007.04.08)